

令和元年度 病害虫防除情報

令和元年 7 月 1 8 日
発表：福島県病害虫防除所

いもち病の発生が確認されました。 今後の天候次第では発生拡大が懸念されます。

- 1 対象作物：水稻
- 2 病 害 虫：いもち病（葉いもち、穂いもち）
- 3 対象地域：県内全域

発生状況

- (1) 7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生は平年より少ない状況でしたが（図1）、いわき市の2地点の本田内で葉いもちの病斑を確認しました。
- (2) BLASTAM（アメダスデータを用いた葉いもち発生予測プログラム）によると、6月下旬から7月にかけて感染好適条件が周期的に出現しています（表1）。
- (3) 東北地方の1か月予報(7月11日仙台管区气象台発表)によると、「東北太平洋側では、期間のはじめは日照時間が少なく、気温の低い状態が続く見込み」と発表されています。
- (4) 育苗箱施用剤を施用したほ場においては、薬剤の効果が切れる時期となってきています。

以上のことから、特に下記に該当するほ場では今後、上位葉での葉いもちの発生及び穂いもちへの進展が懸念されますので、早めに薬剤防除を実施するなど適切な防除に努めてください。

- ① 育苗箱施用剤を施用していないほ場
- ② 上位葉に病斑が見られるほ場
- ③ 中山間地のいもち病常発地帯
- ④ 葉色が極端に濃いほ場

防除対策

- (1) 葉いもちの発生が確認されたほ場では薬剤散布を実施し、病勢の伸展を防いでください（表2）。
- (2) すでに育苗箱施用剤や水面施用剤を施用したほ場であっても、葉いもち発生が確認された場合には追加防除を行ってください。
- (3) 葉いもちの発生が確認されていない地域でも早期発見・早期防除に努め、発生、拡大を防いでください。
- (4) 窒素の追肥はいもち病の発生を助長しますので、発生ほ場では薬剤散布も併せて行うなど、注意して実施してください。
- (5) 穂いもちを対象に水面施用剤を施用する場合は、各薬剤の施用適期に湛水して散布し、その後7日間以上は止水してください（表3）。
- (6) 穂いもちを対象に散布剤を施用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃期の2回散布を基本に、多発生のおそれがある場合には、さらに傾穂期にも追加してください。
- (7) 低温などで出穂期間が長引く場合は穂ばらみ末期を基点として、7～10日おきに散布剤を2～3回散布してください。
- (8) 耐性菌の出現を防ぐため、同じ系統の薬剤の連用は避けてください。

表1 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の出現状況

アメダス地点 月日	中通り										会津						浜通り								
	梁川	福島	二本松	船引	郡山	湯本	小野	石川	古殿	白河	東白川	喜多方	西会津	猪苗代	若松	金山	只見	南郷	田島	相馬	飯館	浪江	川内	広野	山田
6月	16日	-	-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	△	-	△	-	-	-	-	-
	17日	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19日	-	-	-	-	-	△	-	-	-	△	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
	20日	○	○	○	-	-	△	-	-	-	-	○	-	△	-	-	-	-	○	-	△	-	△	-	-
	21日	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	●
	22日	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	△	-	-	△	-	△	-	-	-	-	-	-	-
	23日	-	●	●	-	-	-	●	○	-	-	-	-	○	-	-	○	○	△	-	-	-	○	●	●
	24日	-	△	△	○	●	△	-	△	△	△	-	-	△	●	-	○	○	-	-	-	△	○	-	△
	25日	△	△	△	-	-	△	○	-	△	△	-	△	△	-	-	-	△	-	○	△	○	△	△	△
	26日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	27日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	28日	●	-	●	○	●	○	○	●	○	-	-	-	-	●	-	-	○	○	●	-	●	○	●	●
	29日	-	-	△	-	-	-	-	-	○	△	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	●	△	-	△
30日	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
7月	1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	
	2日	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	△	-	-	-	-	-	
	3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
	4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	△	-	-	-	-	-	-	-	
	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	
	7日	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	●	●	
	8日	△	△	-	-	-	△	-	△	△	-	△	△	-	-	-	△	△	-	△	-	△	-	●	
	9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	
	10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	※	-	-	-	-	-	-	
	11日	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	12日	-	-	-	△	-	△	△	△	△	-	○	-	-	-	△	△	-	△	-	△	-	△	-	△
	13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	○	○	-	-	-	-	-	○
	14日	-	-	○	-	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	●
	15日	-	-	△	△	△	○	△	○	△	-	△	●	-	●	○	●	●	○	○	△	○	△	●	-
	16日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	△	-	-	-
	17日	-	-	-	○	●	○	○	●	△	●	●	●	○	●	●	●	●	-	●	-	-	○	△	●

●：感染好適条件、○：準感染好適条件、△：感染可能条件、-：感染好適条件を満たしていない、※：判定不能

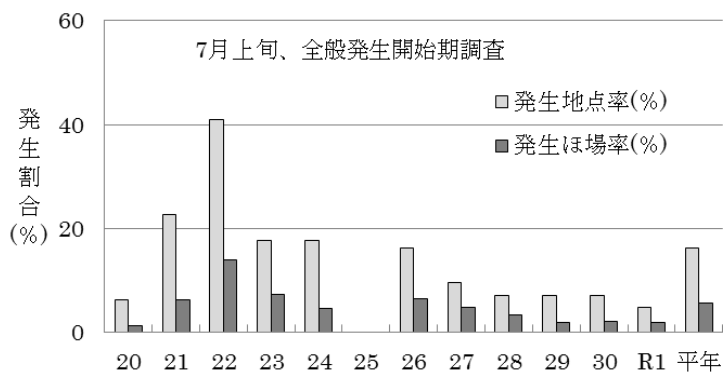


図1 葉いもちの全般発生開始期調査結果（7月上旬巡回調査）
注）平成25年度は調査未実施。

表2 葉いもちの本田防除薬剤（茎葉散布剤（粉剤、液剤等）、水面施用剤（粒剤等））

剤型	薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使用量、 (散布液量)	使用回数 の制限
粉剤	ノンブラス粉 剤DL	トリシクラゾール フェリムゾン	I1 U14	収穫7日前まで	3~4kg	2回以 内
	ビーム粉剤D L	トリシクラゾール	I1	収穫7日前まで	3~4kg	3回以 内
	ブラシン粉剤 DL	フェリムゾン フサライド	U14 I1	収穫7日前まで	3~4kg	2回以 内
	ラブサイド粉 剤DL	フサライド	I1	収穫7日前まで	3~4kg	3回以 内
液剤、水 和剤、乳 剤、フロ アブル 剤	アミスターエ イト	アゾキシストロビ ン	C3	収穫14日前まで	1,000~1,500倍 (100 ~200L/10a)	3回以 内
	カスミン液剤	カスガマイシン	D3	穂揃期まで	1,000倍	2回以 内
	ノンブラスフ ロアブル	トリシクラゾール フェリムゾン	I1 U14	収穫7日前まで	1,000倍 (60~150L/10a)	2回以 内
	ビームゾル	トリシクラゾール	I1	収穫7日前まで	1,000倍	3回以 内
	フジワン乳剤	イソプロチオラン	F2	収穫14日前まで	1,000倍	2回以 内
	ブラシンフロ アブル	フェリムゾン フサライド	U14 I1	収穫7日前まで	1,000倍 (60~150L/10a)	2回以 内
粒剤、パ ック剤	ルーチン粒剤	イソチアニル	P3	移植直後~葉いもちの 初発3日前 (収穫30日前まで)	1kg	2回以 内
	オリゼメートパ ック	プロベナゾール	P2	葉いもち初発10日前 ~7日前 (収穫14日前まで)	小包装(パッ ク)20~26個 (1~1.3kg)	2回以 内
	フジワン粒剤	イソプロチオラン	F2	葉いもち初発10日前 ~7日前 (収穫30日前まで)	3~5kg	2回以 内
	オリゼメート粒 剤	プロベナゾール	P2	葉いもち初発10日前 ~初発時 (収穫14日前まで)	3~4kg	2回以 内
	コラトップ粒剤 5	ピロキロン	I1	葉いもち初発10日前 ~初発時	3~4kg	2回以 内
	コラトップ1キロ粒 剤12	ピロキロン	I1	葉いもち初発10日前 ~初発時	1~1.5kg	2回以 内
	コラトップジャン ボP	ピロキロン	I1	葉いもち初発20日前 ~初発時	小包装(パッ ク)10~13個 (500~650g)	2回以 内
	オリブライト1キ ロ粒剤	メトミノストロビン	C3	葉いもち初発10日前 ~10日後 (出穂10日前まで (但し、収穫45日前ま で))	1kg	1回

表3 穂いもちの本田防除薬剤（茎葉散布剤（粉剤、液剤等）、水面施用剤（粒剤等））

剤型	薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使用量、 (散布液量)	使用回数 の制限
粉剤	穂いもちの防除薬剤を参照してください。					
液剤、水和剤、乳剤、フロアブル剤	穂いもちの防除薬剤を参照してください。					
粒剤、パック剤	フジワン粒剤	イソプロチオラン	F 2	出穂 30～10 日前 (収穫 30 日前まで)	3～5kg	2 回以内
	コラトップ粒剤 5	ピロキロン	I 1	出穂 15～10 日前	3～4kg	2 回以内
	コラトップ 1 キロ粒剤 1 2	ピロキロン	I 1	出穂 15～10 日前	1～1.5kg	2 回以内
	コラトップジ ヤンボ P	ピロキロン	I 1	出穂 15～10 日前	小包装 (パック) 10～13 個 (500 ～650g)	2 回以内

(注) 液剤、水和剤、乳剤、フロアブル剤の散布液量は、農薬ラベルに記載がない場合、10a 当たり 140～150ℓ 散布する。

(注) 使用時期の下線は、試験の結果等をもとに農薬登録の使用基準の範囲内でより効果的な使用時期を示す。

(注) 令和元年 7 月 16 日現在の農薬登録内容

● 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生子察課（病害虫防除所）まで御連絡ください（TEL 024-958-1709、FAX 024-958-1727）。

● 本情報は、福島県病害虫防除所のホームページ（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）でもご覧になれます。